

健苗育成で良食味米生産スタート！！

今年は雪解けが早まる見込みですが、急がず遅れず、適期の田植日から逆算したは種作業と温度管理の徹底で健苗を育成しましょう。

1 今年の春作業の注意点

- 消雪は小出、入広瀬ともに、平年に比べて10日ほど早まる見込みであり、入広瀬の消雪予想日は、4月9日です(3月20日現在)。
- 消雪は平年より早まる見込みですが、高温下のコシヒカリの出穂は品質低下を招くことが多いため、春作業は焦らず例年の田植適期を目指して準備を進めましょう。
- 用水路や畦畔に亀裂などの破損がある場合は、確実に修復しましょう。
- 春作業に使用する機械は早めに点検を行いましょう。
- 農作業事故に注意しながら、農業機械を運転しましょう。



2 育苗計画

- 適期に健苗が田植できるよう、品種や標高、作付規模に応じた育苗計画を立てましょう。(コシヒカリの場合:平坦地では5月20日～25日、山間地は5月末までに移植しましょう)
- は種時期を遅くするほど、気温上昇により育苗日数が短くなります。老化苗にならないよう育苗計画を立てましょう。

＜コシヒカリのは種時期・田植え時期のめやす＞ 稚苗加温育苗

	標高の低い地域	標高の高い地域
は種時期	5月上旬	4月下旬
田植時期	5月20日～25日	5月末まで



＜コシヒカリの田植適期を踏まえた各作業実施日の例＞ 稚苗加温育苗

区分	浸種	催芽	は種	田植適期
平坦地 (標高の低い地域)	4月20日 ～ 4月25日	4月30日 ～ 5月5日	5月2日 ～ 5月7日	5月20日 ～ 5月25日

○山間地(標高の高い地域)は、5月末までの適期に移植できるよう計画を立てましょう。

※浸種期間は10日間、催芽期間は2日間、育苗日数は18～20日とした。

3 育苗作業のポイント

(1) 種子予措

ア 種子消毒

○温湯消毒のみでは、ばか苗病などに対して防除効果が不十分なため、必ず「温湯消毒＋生物農薬」の体系防除を実施しましょう。

○消毒後の乾燥は、風通しの良い日陰で行いましょう。

イ 浸種

○発芽揃いを良くするため、播種日から逆算して浸種を始めましょう。

○浸種初期の低水温(10℃未満)は、発芽揃いを悪くするので避けましょう。

○浸種期間は気温が高いと予想されているため、急激な水温上昇により発芽が不揃いにならないよう注意しましょう。

○コシヒカリの浸種は、水温12℃、積算水温120℃を目安とし、吸水状況や芽の動きを注意深く確認しながら行いましょう。

○こしいぶきや新之助の浸種は、水温10℃～15℃、積算水温100℃を目安に行いましょう。

ウ 催芽

○催芽温度は30℃で、1～2日を目安としましょう。

○ハト胸状態の粃(図1)が80%程度となったら、終了しましょう。

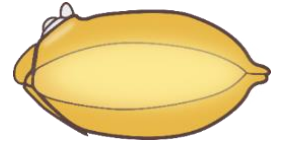


図1 ハト胸状態の粃

(2) は種

○厚まきは軟弱徒長苗や育苗障害の発生につながり、極端な薄まきはマット形成不良の原因となるので、育苗様式に合わせては種量を調整しましょう。

育苗様式	播種量(箱当たり)	
	乾粃	催芽粃
稚苗	130～140g	160～175g
中苗	80～100g	100～125g

(3) 温度管理

○温度計を苗の高さに設置し、こまめに適正な温度管理に努めましょう。

○高温時は、ヤケ苗の危険性が高まります。こまめな換気や遮光率の高い被覆資材を使用し、急激な温度上昇を抑えましょう。

○低温時や霜注意報発表時は、被覆を行い、苗を守りましょう。

○こしいぶきは苗丈が伸びにくいので、緑化期間を1日程度長めにしましょう。

【加温出芽における温度管理・処理日数(稚苗)】

育苗段階	終了段階の苗の生育	温度管理(℃)		処理日数(日)
		昼間	夜間	
出芽期	出芽長 0.5～1cm	30	30	2～3
緑化期	第1葉鞘長 3.5cm	20～25	15～18	2～4
硬化期	苗丈 12cm	15～20	10以上	12～13

不明な点は農協営農センターまたは普及センターまでおたずねください